

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 News【第1号】

平成 23 年 2 月 7 日、平成 22 年度「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」を開催しました。

平成 22 年度 幾春別川ふるさとの川づくり懇談会を、以下のとおり開催しました。

- ・ 日時:平成 23 年 2 月 7 日(月) 13:30~15:30
- ・ 場所:岩見沢河川事務所 1F 会議室

当日は委員14名中、代理出席を含め10名の方が参加しました。懇談会では、昨年度、現地調査を行った三笠水辺の楽校などの利用施設での「川の通信簿」調査についての結果報告、昨年度の懇談会で意見の多かった幾春別川の水質についてや河川利用や施設の整備状況について報告や意見交換を行いました。さらに、近年の地球温暖化に伴う気候変動について情報提供を行いました。

意見交換では、子供たちの河川利用に向けた意見などが出されました。その後、来年度の「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」について事務局から提案がありました。

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 の主な発言から

懇談会の主な発言をご紹介します。

平成21年度「川の通信簿調査」結果報告

- ・ 三笠の水辺の楽校近くの小中学校が今年の3月で統廃合されるので、子供たちがいなくなってしまう。学校が三笠の中心のほうになってしまうので、学校単位で利用するということが厳しくなってしまう。それがあらたな問題だと思う。

幾春別川の水質について

- ・ 釣り人たちが結構きて利用されている。昔は水が濁っていてフライとかが主流だったが、今は水が綺麗になってきて餌でも釣れるようになったと聞いている。そういう意味でも水質には、濁りも含めて関心がある。

幾春別川等の河川利用及び利用施設の 整備状況について

- ・ 昨年、北村の水辺の楽校箇所の伐採が行われかなり環境がよくなったが、8・9月の大雨で、水辺の楽校の中の踊り場にかなり土砂が堆積したので、その環境をよくしていただければありがたい。
- ・ 水の不足が世界的に問題になっているというようなことが新聞に載っていて、ナイル川の清流域では土地の買い占めをされているような話もある。そういう状況の中で、幾春別川の周辺の土地というのはそういう対象にされ

ないですむのかどうか、ちょっと心配になってきたりしている。

- ・ これまでは、過去の洪水被害を防ぐということが大事で河川事務所の方が努力されてきて、ある程度それが充実してきた段階で、市民に親んでもらうためうちらが活動してきた。これからは、ちょっと違う視点が、求められるんじゃないかと感じている。

幾春別川 ふるさとの川づくり 懇談会 委員

氏 名	所 属
石黒 武美	NPO 山のない北村の輝き 理事長
伊東 良幸	岩見沢市教育委員会 教育部長
柏崎 昭文	(社)岩見沢青年会議所 理事長
管野 二郎	札幌建設管理部 岩見沢出張所長
榊原 郁子	北海道教育大学岩見沢校 名誉教授
嵯峨 義輝	幾春別川をよくする市民の会 会長
高篠 和憲	NPO 三笠森林遊学舎 理事長
田中 裕晃	岩見沢市 健康福祉部 環境対策課長
奈良 健二	岩見沢市観光協会 会長
宝沢 康晴	FM はまなす JAPAN 放送局 部長
松浦 基晴	三笠市 経済建設部 建設管理課長
眞野 弘	北海土地改良区 理事長
石神 孝之	幾春別ダム建設事業所長
伊藤 禎朗	岩見沢河川事務所長

- ・水を考えたときに山と川はつながっており、そういったつながりを省庁の垣根を越えて守っていかなければいけないと思う。
- ・個人的には源流部は保安林となっており問題はないと思うが、懸念される箇所はある程度の規制が必要ではないか。
- ・海外では、下枝払いなどはうけが良い。河畔林の下枝払いとかでイベントを開催して、それで住民に川に関わってもらおうというのいいのではないか。
- ・僕としては、かさ上げに期待している。かさ上げで水位が上がると裸地の面積もへって、土砂も流れてこないし湖の水も綺麗になるんじゃないかと思っている。そういう意味でもかさ上げがストップにならないでほしい。
- ・昔は川で当たり前のように遊んでいた。われわれもしょっちゅう子供たちを川に集めているいろいろな遊びをしていたが、親水という言葉が出てきたころから我々があまり川での遊びをやらなくなったと感じている。いろいろと川の施設を作ってきてもらったが、それを利用しないのは、我々、地域住民の意識の変化なんだと思っている。
- ・来年度のサケの稚魚放流壮行会で稚魚放流は20回目になるが、プロジェクト委員でイベントを考えている。そのときには、川に関わりのある皆さんたちに、知恵や力をお借りしたいと思っている。
- ・地球温暖化という観点からも緑を出来るだけ残していく、川と一体となってやって川と緑がいきいきできるような形を皆さんと一緒にやっていきたく感じている。
- ・サケの稚魚放流を継続し、さらに子供たちに広げていくことが重要だと感じている。広げていくためにはマスコミとか報道を活用しながら人を集めていく努力をする必要があると感じている。
- ・川の大切さ、森林の大切さなどを伝えていくべきと感じている。
- ・川の遊びは子供だけでなく、安全・安心という面から大人がいないと難しいと思う。大人が中心となって組み立てた事業は申し分なく、これで十分だしそんなに多くはできないと感じている。
- ・日常的に子供たちが川遊びをするとすると保護者の安全指導が必要と思うが、保護者も川のことをよく知っている人からおそわることが必要だと思う。
- ・子供達に安全・安心な川遊びを教えるというのは、その保護者から始めてやっていくことにより、大人中心のサケの稚魚放流であるとか河川調査であるとかありますけれども、こういった特別なことでなくともできるので

はないかと考えている。

- ・土曜日に学校を使って土曜ふるさと事業をやっている。その時に川の教育をできる人に来ていただいて保護者の方に教育をしてもらうということは可能だと思う。
- ・三笠の小学生20人くらいでラフティングをやった際に川で泳いだりロープを投げさせたりしたが、あまり人が多いと対応できない川で流される体験などやらせたいが費用の問題や人のバックアップの問題もありませんかできない。
- ・北村で川遊びに適した場所がない。水辺の楽校ももう少し整備して欲しい。
- ・パークゴルフ場の管理人の方に、川の利用者の監視をしてもらうというようなことができないかと思う。
- ・子供達を川遊びにつれて行ったら、みんな水の中で遊ぶのが楽しいのか川から戻ってこなかった。監視する大人がいて安全を保証できる、川に親しめるそういう場をもてれば子供達は本性をむきだして楽しむことができるという気がする。
- ・最低限のことをレクチャーしてこういうときはこういう風にすれば助けられるというくらいのことを教えればいいと思う。そういうこともこれから地域の人と連携してやっていく必要があると思う。
- ・観光となるとボランティア的なものではなく、企業の力が必要だと思う。尻別川もお金をとっているが、参考にできないかと思う。

地球温暖化に伴う気候変動について

- ・河川利用者としては CCTV の画像をはやく公開して欲しい。

その他の事項

委員の了解のもと、来年度も「幾春別川ふるさとの川づくり懇談会」を開催することとなりました。

来年度の座長は、委員の互選により、宝沢委員となりました。

ご意見やお問い合わせは、下記事務局
札幌開発建設部 岩見沢河川事務所
 〒068-0007 岩見沢市7条9丁目
 TEL 0126 (23) 9555
 FAX 0126 (25) 1697

まで、お気軽にお寄せください。

札幌開発建設部 HP アドレス

<http://www.is.hkd.mlit.go.jp/>